

1. 開会

(1) 挨拶

大西 勝也 (黒潮町長)

本日は、年末の色々ばたばたしている時期に、全国各地からまた町内の各学校から多くの先生方にお集り頂きました。地域を代表して歓迎と平素の教育に対する敬意を表したいと思えます。

遠路からお越し頂きました先生には、片田先生が無理を言って、ご迷惑をおかけしているんじゃないかなと思っています。先生とお付き合いをすることでこういうことは多々ありますから、よっぽど腹をくくつとかなないと片田防災はできない。このことを自分達もこの2年ぐらいで実感を持ちました。

先日、地区防災シンポジウムを開催させて頂きました。この後、開放座談会でも少し触れるかと思いますが、その際に田ノ口小学校の6年生に発表して頂いたら、会場中の方が涙したという自分達にとって非常に嬉しいでき事もありました。そこに至るまでの学校の先生方の努力であるとか、その教育を受けたときの子ども達の心境だったりとか、そういうことを直感的に観衆の方が感じ取られたんじゃないかなと思っています。防災教育はこうあるべきだと思っています。

本日は、自分達の町よりももっともっと進んだ防災教育をやられている町から、沢山の先生にお出で頂いております。そういった先生方からいろんなご指導を頂いて、黒潮町の防災力向上、機能向上、あるいは相互の情報交換で、それぞれの町に相乗効果が現れるように、そんな日程にして頂ければと思っています。色々開会にあたりまして不備もあろうかと思えますけども、何とかご理解を頂いたうえで、素晴らしい黒潮町での日程にして頂けますことを心よりお願い申し上げまして、開会にあたりましての地域を代表してのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。



大西 勝也 町長

坂本 勝 （黒島町教育委員会 教育長）

今日は遠路、ようこそ黒潮町へお出でを頂きました。そして、第3回目となりますこの防災教育推進連絡協議会が黒潮町で開催されることで本当に嬉しく思っております。群馬大学をはじめ、関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

これまでの黒潮町の防災教育について、少しお話しをさせて頂きます。黒潮町には、中学校 2 校、小学校 8 校、保育所 4 園、高等学校 1 校がございます。そのうち、津波の浸水域想定区域内にある施設は 6 施設ございます。14分の 6 とい

うことで、決して多くはないのではないかとと思われるかもしれませんが、これは学校の校舎の話であって、多くの地域の住民の方々、そして子ども達は、浸水区域内の低いところで日々生活をしている状況です。そのため、高台にある学校でも低いところにある学校でも、同じように防災教育を行う必要があると思っております。地震想定が公表されて以降、町内の各学校には年間 6 回以上の避難訓練と 10 時間以上の防災教育をお願いをしてまいりました。先生方、本当に一生懸命取り組んで頂きました。

しかしながら、これは教育委員会の責任でもあるのですが、各学校では積極的に取り組んで頂いておりましたけれども、学校全体としての一体感というか、そういったものが少し弱いと感じておりました。そういうこともあって、2 年前の平成 26 年 3 月に、何とかこの黒潮町の防災教育を充実させたいということで、第一人者である片田先生にお願いしようということになりました。私と教育次長と学校教育係長の 3 名で東京へ出ていきまして、片田先生にお願いを致しました。「何とか黒潮町の防災教育を充実したものにしていただけないでしょうか」とお願いしましたら、本当にお忙しい中にもかかわらず、快く引き受けて頂きました。それ以来、約 2 年になりますが、何度もこの黒潮町にお出でを頂いてご指導を頂きました。

新しい防災教育を始めて、何が変わったかのかなと考えてみました。やはり、先生方の意欲、「黒潮町にきたなら、防災教育は当たり前だ」という感じになっていったのではないかと思っております。町全体で取り組み始めてから、こういった連帯感を感じるようになりました。

町内には約 120 名の先生方がおられますけれども、今日はそのうちの半数以上の先生方がこの会場に参加を頂いております。黒潮町が進める、人権教育も、防災教育も同じであると。そういう認識を頂いているというふうに思っているところです。今日明日と二日間、皆様方と共に防災教育を学べることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ致します。



坂本 勝 教育長